

# TOPICS

トピックス

## CONTENTS

製薬協会 会長記者会見を開催  
—宮柱明日香新会長が所信表明—



P.22

「第14回APAC(アジア製薬団体連携会議)」を開催  
—革新的な医薬品をアジアの人々に速やかに届ける—



P.23

2025年「製薬協会コード・オブ・プラクティス」  
改定について

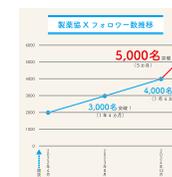
P.24

ジュネーブにてWHA78サイドイベント  
「感染症と闘うための戦略的パートナーシップの強化」を開催  
—感染症対策における日本の貢献と戦略的パートナーシップ—



P.25

製薬協会公式Xアカウントのフォロワー数が5,000人を突破  
—ステークホルダーとの信頼の架け橋に—



P.26

## Information

主な活動報告、今後の活動予定  
(2025年4月1日～6月30日)

P.27

# 製薬協会 会長記者会見を開催

—宮柱明日香新会長が所信表明—



製薬協会  
宮柱 明日香 新会長  
(武田薬品工業株式会社)

2025年5月22日、製薬協の宮柱明日香新会長（武田薬品工業）は製薬協会会長記者会見を開催し、「Co-creation—共創とイノベーションで築く、医療の未来と新しい価値」をテーマに所信表明しました。

## 「共創」で医療の未来を築く

「不易流行」の精神を掲げ、伝統を尊重しながらも時代に応じた変革を進める姿勢が重要です。国民皆保険制度という日本の強みを活かしつつ、「国民・患者さんの健康向上」を価値の起点に据えた「共創（Co-creation）」が重要です。超高齢社会である日本が抱える医療の持続可能性の課題に対し、すべてのステークホルダーと対話・相互理解・共通課題の解決を通して新しい価値を創出していく必要があります。



## 医薬品産業の役割と責任： 健康・経済・社会を支える

医薬品産業は単に薬を提供するだけでなく、国民の健康寿命の延伸、経済成長への寄与、地域社会の活性化といった多層的な価値を担う産業です。特に、研究開発型の産業としての責任を自覚し、革新的医薬品の安定供給や国際競争力向上を目指

していきます。

## 投資を呼び込む医薬品市場の魅力向上へ

創薬力の国際的な地位の低下や、薬価制度の予見可能性といった構造的課題については、日本市場の魅力度を高めることが投資を呼び込む鍵だと考えます。また、安定した制度運営、予見性の高い薬価政策の実現、バイオや新規モダリティへの生産投資の促進等に取り組んでいきます。

## 医療DXの推進と価値の再配分

創薬・生産・供給の効率化を図りつつ、患者一人ひとりに合った医療を実現する「質の高い医療」の提供を目指します。医療機関・製薬企業・行政等が連携してデータ活用を推進し、より価値の高い医療・医薬品への再投資をすることで、国民・患者さんへの最適な医療提供や持続可能な社会保障の実現につながっていきます。

## 明確な役割分担と「共創」による 課題解決を

医療を取り巻く課題は製薬業界だけでは解決できません。すべての関係者が各自の役割を明確にし、共通の目的に向けて共創することが不可欠です。製薬協はその中核的なプラットフォームとして、対話と連携を深め、医療全体の好循環を生み出す主体となることを目指していきます。

本編はこちらから  
ご確認ください！



# 2025年「製薬協コード・オブ・プラクティス」改定について

2025年10月1日より、改定「製薬協コード・オブ・プラクティス (COP)」が実施されます。今回の改定は、国際的な倫理基準 (IFPMAコード・オブ・プラクティス、医薬品のプロモーションに関するWHO 倫理基準) や国内ガイドライン (厚労省「医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドライン」(以下、「販売情報提供活動ガイドライン」という。)) との整合性を図ることを目的としています。

## ■改定の主なポイント

### 1. プロモーションの定義の見直し

IFPMAコード・オブ・プラクティス、販売情報提供活動ガイドラインとの整合性を担保しました。つまり、現行の定義を踏襲し、「適正使用を図ることを堅持しつつ、販売促進を期待した活動を「普及を図ること」と表記しています。さらに、「会員会社が実施する医療関係者の処方判断に影響を与える可能性のあるすべての行為を含む」との補足説明を追加しています。

### プロモーションの定義

「プロモーション」とは、「医療関係者に医療情報を提供・収集・伝達し、それらに基づき医療用医薬品の適正な使用と普及を図ること」をいい、会員会社が実施する医療関係者の処方判断に影響を与える可能性のあるすべての行為を含む。

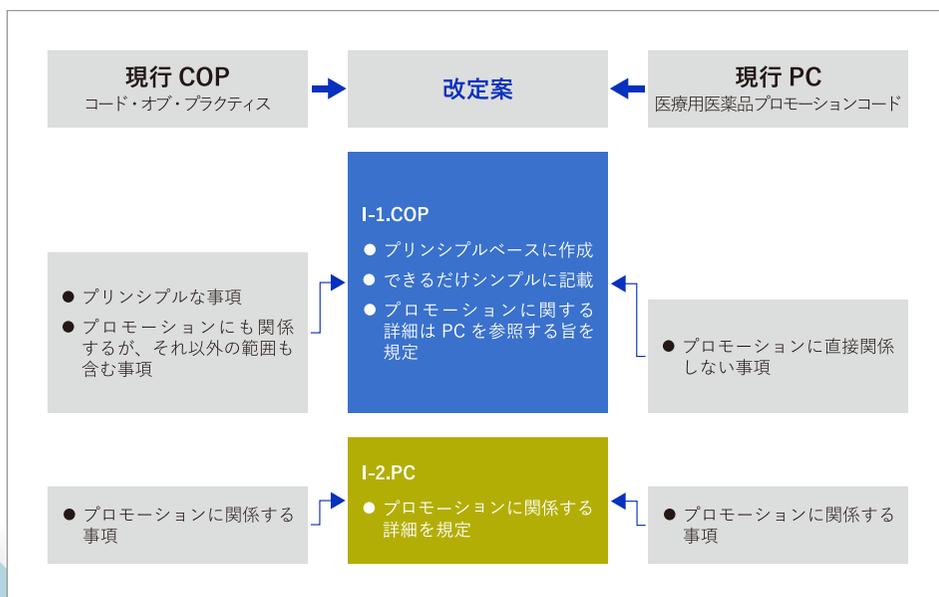
### 2. プロモーションコード (PC) 表現や

重複する記載の見直しについて

プロモーションの定義の変更により、プロモーションを行う者は、MRだけではないことがより明確になったため、PC内にあるMRが主体となった記載を改めました。また、プロモーション用資材 (電子媒体を含む) 等の作成については「医療用医薬品製品情報概要等に関する作成要領」で詳細に定められているため、PCでは記載していません。

今回の改定において、COPとPCの間で重複した記載を整理し、COPにおいてシンプルなる事項を規定し、プロモーションに関する詳細事項をPCに委ねる構成としました。

製薬協では、医薬品のプロモーション活動における倫理性と透明性を確保するため、その時代背景に合わせながら、長年にわたり自主基準の整備を進めてきました。会員会社のすべての役員・従業員がCOPの精神を理解し、適切な産学連携のもと、研究者、医療関係者、患者団体等と相互の信頼関係を構築し、倫理的で患者の立場に立った適切な医療が行われるよう日々の業務に反映させることが重要です。今回の改定の趣旨の理解のうえ、日々の活動を行っていきましょう。



製薬協コード・オブ・プラクティスはプリンシプルベース、プロモーションコードはプロモーションの細則までを記載するものとし、それぞれの内容の重複を整理しました。

詳細はこちらから  
ご確認ください! 📖

ジュネーブにてWHA78サイドイベント

# 「感染症と闘うための戦略的 パートナーシップの強化」を開催

— 感染症対策における日本の貢献と  
戦略的パートナーシップ —



世界保健総会 (WHA78) 期間中、在ジュネーブ国際機関日本政府代表部と製薬協の共催により、朝食セッション「感染症（ベクター媒介性疾患、顧みられない熱帯病、新興感染症）と闘うための戦略的パートナーシップの強化」を開催しました。日本政府、製薬業界、国際機関 (WHO)、NGO、協力対象国であるインドネシア保健省から登壇者を迎え、さまざまな立場から「国境を越えた連携と、イノベーションの重要性」について議論しました。

## 多様な立場からの発言

厚生労働副大臣の仁木博文氏は、日本がGHITファンドやNTD撲滅のための拡大特別プロジェクト (ESPEN) を支援し、「国境を越えた協力とイノベーションが感染症対策には不可欠」との認識を示しました。

GHITファンドCEO/専務理事の國井修氏は、結核について「2035年までに90%削減するという世界目標からは程遠い状況」と警鐘を鳴らし、「新しいツールとイノベーションが必要」と強調しました。

武田薬品ワクチン事業部のワリード・カンドイル氏は、「デング熱ワクチンの開発には50年以上かかった」と説明し、グローバルファンドとの戦略的パートナーシップについて報告。日本の製薬業界では、エーザイのリンパ系フィラリア症治療薬の無償提供、大塚製薬の多剤耐性結核治療薬デラマニド等、イノベーションを通じた国際貢献が紹

介されました。

インドネシア保健省のイナ・アグスティナ・イストゥリニ氏は、同国514地区のうち94%がデング熱の流行地域で、2024年には25万件以上の症例が報告されている現状を報告。「官民協働によるパートナーシップが必要」と述べ、国際連携の成功事例を紹介しました。

WHO NTD 部門責任者のラマン・ベラユダン氏は「長期的な影響をもたらすパートナーシップを優先すべき」と強調。

DNDiのファビアナ・アルベス氏は「手頃な価格で利用可能な治療法につながるイノベーションが必要」と訴えました。

国立健康危機管理研究機構 (JIHS) の氏家無限氏は「政府、国際機関、製薬会社の協力が必要」と強調しました。

製薬協の中川祥子常務理事は閉会の辞で、「イノベーションの促進とアクセスの確保を両立させることは、より健康で公平な未来社会を実現するうえで喫緊の課題。製薬協は革新的医薬品の創製を通じてグローバル社会に貢献していく」と述べ、8月開催の第9回アフリカ開発会議 (TICAD 9) でのサイドイベント開催を予告しました。

本編はこちらから  
ご確認ください！

# 製薬協公式Xアカウントの フォロワー数が5,000人を突破

—ステークホルダーとの信頼の架け橋に—



5,000名突破投稿



初「バズ」投稿



宮柱新会長もつぶやきます

2025年5月、製薬協公式Xアカウントのフォロワー数が5,000名を突破しました。

製薬協公式X（当時はTwitter）は、一般生活者の皆さまに向けて製薬協の活動や医療・健康情報をお届けするため、製薬協広報委員会（オウンドメディア推進部会）が2022年2月に開設したものです。アカウント開設以降、オウンドメディア推進部会のメンバーを中心に、運用状況をレビューする定例会を毎月欠かさず開催し、各投稿への反応や要因分析を重ねてきました。こうした継続的な改善の取り組みにより、2022年4月に2,000人、2023年8月に3,000人、2024年12月に4,000人と順調にフォロワー数を伸ばし、このたびついに5,000人の大台に到達しました。特に4,000人を超えてからの増加は加速しており、皆さまからの大きなご期待を感じています。

2024年12月25日に投稿した「令和7年度薬価改定の骨子」(中央社会保険医療協議会取りまとめ)に関する投稿は、製薬協公式X初の「バズる」投稿となり、100万インプレッション※を超える大きな社会的反響を呼びました。

また最近では、新たなシリーズ投稿として、宮柱新会長が製薬協に関わる活動についてつぶやく「#宮柱のひとりごと」をスタート。会長自身の想いや気持ちを込めて発信しており、今後も会長の「ひとりごと」に反応してくださる方が増えることを期

待しています。

こうした日々の発信に加え、オウンドメディア推進部会では、年2回程度、会員会社のSNS実務担当者を対象にした交流会も開催しています。日頃の悩みや課題を共有したり、他社の担当者と一緒に投稿を考えたりすることで、実務に役立つ学びと情報交換の機会となっています。



2024年9月開催の「SNS実務担当者交流会」

製薬協では、産業ビジョンの柱の一つに「信頼」を掲げ、患者さんをはじめとするあらゆるステークホルダーとのCo-creation（共創）を推進しています。SNSは、そうした皆さまとの対話のきっかけとなる重要なコミュニケーションツールです。今後もより多くの方に愛され、ステークホルダーとの信頼の架け橋となれるよう、運用の改善・強化に努めてまいります。

※インプレッション：投稿がユーザーの画面に表示された回数

製薬協公式Xはこちらから。  
ぜひフォローをお願いします。

## 5/27 | 第43回広報セミナー

## 伝わるメッセージライティングと話し方の技術

製薬協広報委員会は、2025年5月27日にコンgresクエア日本橋で「第43回広報セミナー」を開催しました。今回のテーマは「伝わるメッセージライティングと話し方の技術」と題して、株式会社カエカのスピーチトレーナー長門萌氏に講演をお願いし、会員会社42社から計138名が聴講しました。講演では、「話し方は努力で変えられる」という考えのもと、話の中身(コンテンツ)と伝え方(デリバリー)の両面から具体的なテクニックが紹介され、参加者からは「非常にわかりやすかった」「実務に直結する内容だった」といった声が多く寄せられました。



## 5/10-14 | ICHマドリード会合

## 新規オブザーバー3団体が加盟、2トピックがステップ2到達

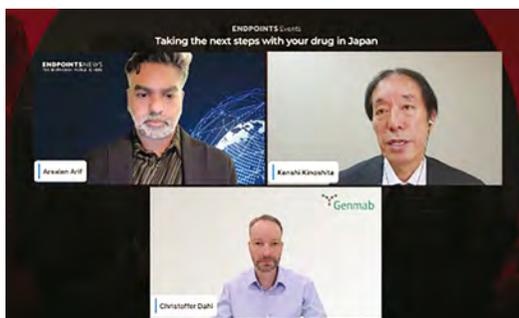
医薬品規制調和国際会議(ICH)の会合が、2025年5月10日～14日にスペインのマドリードで開催されました。世界各国から400名の委員・専門家が参集し、製薬協からも27名が参加。総会と管理委員会に加え、ICHガイドライン策定を担う11トピックの作業部会も実施されました。新規オブザーバーとしてパラグアイ、クウェート、エルサルバドルの3団体加盟が承認され、ICH全体は64団体体制となりました。また、M4Q(R2)とE21の技術文書案がステップ2に到達し、ガイドライン作成が大きく進捗しました。



## 5/28 | 木下理事長、米国「Endpoints News」パネルに登壇

## 日本の製薬市場の魅力をグローバルに発信

製薬協の木下賢志理事長が、米国の医薬業界メディア「Endpoints News」主催のパネルディスカッションに登壇しました。Endpoints Newsは米国を拠点とするバイオ医薬品業界専門のニュースメディアで、製薬企業や投資家、アカデミア等に向けて業界情報を発信しました。今回のパネルは英語で行われ、約1,000人以上が参加しました。テーマは「日本の製薬市場の魅力と可能性」で、木下理事長は日本の薬価制度や規制プロセスの現状と改革の方向性、市場の国際的価値について解説し、日本市場への理解と関心を呼びかけました。



## 5/14 | 石田常務理事、学生向けオンラインイベントに登壇

## 製薬業界の未来 ～業界団体はどう見ているか?～

製薬協の石田佳之常務理事が、2025年5月14日に株式会社マイナビ主催のオンラインイベント「製薬・CROインターンシップ&キャリア発見フェア」に登壇しました。「製薬業界の未来～業界団体はどう見ているか?～」をテーマとし、全国から1,200名以上の学生がライブで参加しました。講演では新薬開発の課題、技術・手法の多様化、AI・バイオ技術の変革、創薬エコシステムの重要性について語りました。質疑応答では70件を超える質問と300件以上のチャットコメントが寄せられ、製薬産業への関心の高さがうかがえました。



主な活動報告(2025年4月1日～6月30日)

4/10	2025年度第1回知的財産委員会運営委員会 委員会活動報告
4/14	第32回 国際委員会総会 2024年度委員会活動報告、2025年度活動計画
4/17	第582回 製薬協理事会 当面の諸課題
4/17	医薬品医療機器総合機構(PMDA)、国立がん研究センター(NCC)、国立健康危機管理研究機構(JIHS)との会合 アジアでの臨床試験の円滑な実施や規制調和の障害となる課題を抽出し解決策を図る
4/18	第147回 医薬品評価委員会総会 委員会活動報告
4/18	第39回 薬事委員会総会 委員会活動報告
4/18	2025年度 医薬品評価委員会・薬事委員会合同総会 特別講演会(厚労省、PMDA)
4/21	第64回 品質委員会総会 2024年度委員会活動報告、2025年度委員会活動計画、講演会
4/22	第14回 アジア製薬団体連携会議(APAC) アジアの製薬団体、政府機関、規制当局、アカデミア等と協力・連携する国際会議
4/23	第14回 アジア製薬団体連携会議(APAC)コンベンション・記者会見 APAC13団体の年会、今期の成果報告・周知
4/23	日台意見交換会 台湾の衛生福利部中央健康保険署(NHIA)ならびに医薬品評価センター(CDE)と、薬価制度、薬価差の解消、医薬品の安定供給などに関する意見交換
5/10-14	ICHマドリード会合 ICH総会、管理委員会、EWG/IWG定例会議
5/14	第4回 環境問題検討会総会 委員会活動報告
5/15	第227回 知的財産委員会総会 委員会活動報告
5/19	第10回 コード・コンプライアンス推進委員会総会 2024年度委員会活動報告、2025年度活動計画
5/21	2025年度くすり相談対応検討会総会 2024年度活動報告、2025年度実施計画 他
5/21	第33回 研究開発委員会総会 2024年度委員会活動報告、2025年度活動計画
5/21	WHA78サイドイベント テーマ:「感染症(ベクター媒介性疾患、顧みられない熱帯病、新興感染症)と闘うための戦略的パートナーシップの強化」

5/22	第275回 製薬協総会、第583回 製薬協理事会 当面の諸課題
5/22	製薬協会会長記者会見 宮柱明日香新会長が所信表明
5/26	第16回 バイオ医薬品委員会合同委員会 2024年度委員会活動報告、2025年度活動計画
5/27	第117回 流通適正化委員会総会 2024年度委員会活動報告、2025年度活動計画
5/27	第64回 広報委員会総会 2024年度委員会活動報告、2025年度活動計画
5/27	第43回 広報セミナー テーマ:「伝わるメッセージライティングと話し方の技術」
5/28	第16回 患者団体連携推進委員会総会 2024年度活動報告、2025年度実施計画、特別講演
6/12	2025年度第2回知的財産委員会運営委員会 委員会活動報告
6/27	第52回 GMP懇談会 持続可能な未来へ:信頼を礎とした医薬品製造の革新と安定供給の実現 -知識管理、連携強化とデジタル技術で実現する品質保証-

主な活動予定(2025年7月1日～9月30日)

7/10	第228回 知的財産委員会総会 委員会活動報告
7/17	第6回 日韓医療製品規制に関するシンポジウム 両国の薬事規制の概要や最新の取り組みの紹介、意見交換
7/23	第584回 製薬協理事会 当面の諸課題
7/31	第3回 日本-マレーシア医薬品規制シンポジウム 医薬品の薬事規制の視点から分野別テーマについて掘り下げた発表および討論
8/7	2025年度第3回知的財産委員会運営委員会 委員会活動報告
9/11	第229回 知的財産委員会総会 委員会活動報告
9/11	第277回 製薬協総会 当面の諸課題
9/12	第51回・2025年度GMP事例研究会 テーマ:「品質保証の実装力強化と現場主導の課題解決アプローチ」